へ 13
3738
2

假名反古
表題豊国
三編上

門へ13
3738

假名反古一休草帝

三編 上冊

種員作
國輝画

假候と發ふ面上る扇と遊さまと藏擬を演ふ明白ふ種を見そ
ると可ともとるが今時の人情あるべ〜されば僕も其ふ倣て此編の
趣向を告ん巻首ふ聰明君が近江國堅田よりいるり心昌尾を
尋ね條客位る能記ある父をるづひて高野山へと説經り
誦ふ苅萱道心と國ハ阿波德島と儀大夫節ふ語る鳴戸の
順礼場と錯雜み〜いる雛案りの更ふ自作の筆力あ〜ぶと
本據を掲る蔵擬の白乃口画小手定ハ雄齋が微細ふ畫〜
近江八景が開巻でございと言を今一度打返〜假倡聲使の
揚名あ〜ふ法ど首ふ出ずるハ此様的不文ゐり

嘉永癸丑肇歳 五 柳下亭種員記

堅田落鴈
聰明君宗曇和尚の
徒弟となり一度
千菊と呼ぶ給ふ

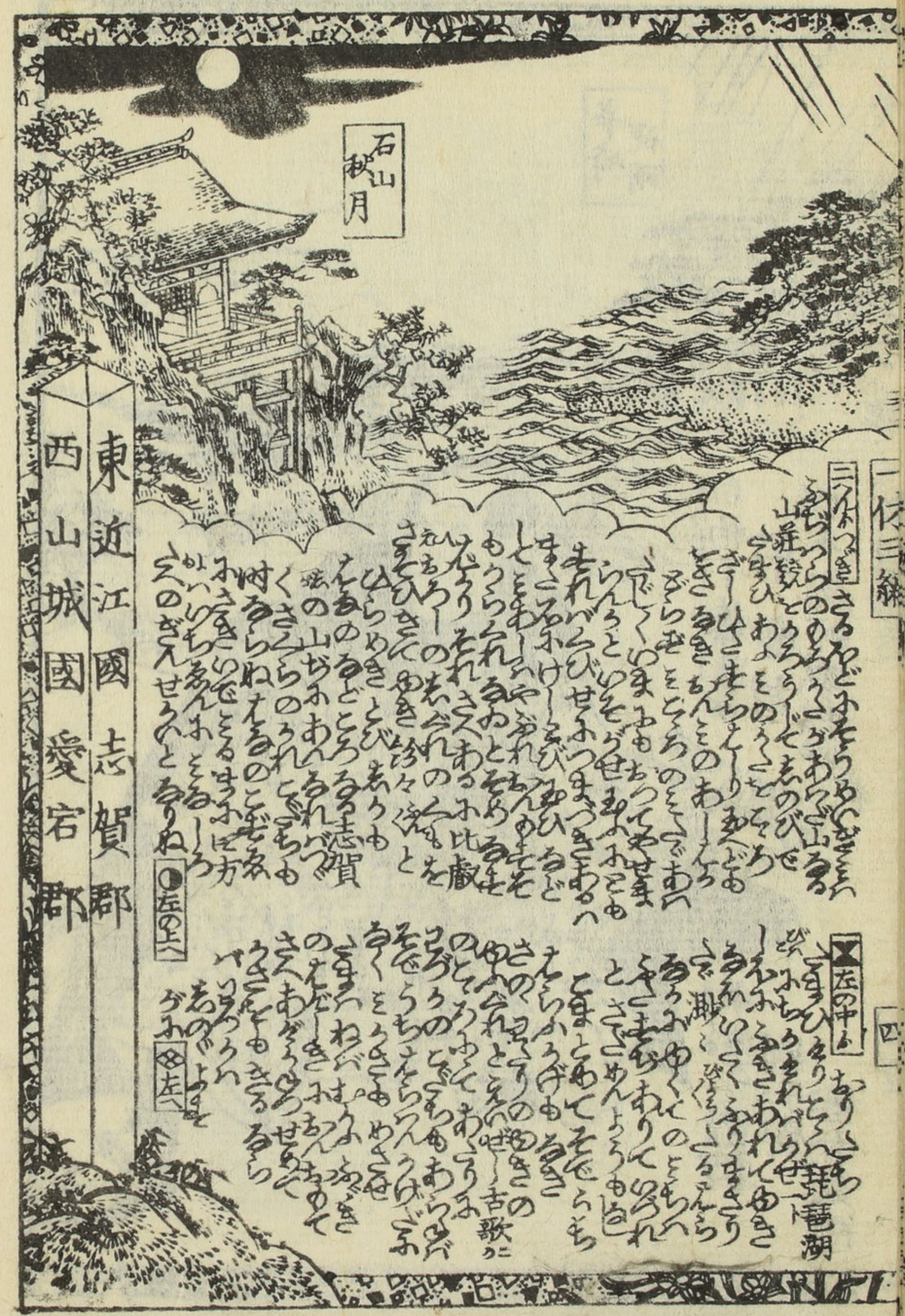
七十一番
職人歌合
たつさはるとりかゝつるろゝけの
ものゝあはれとなるけく
瀬田夕照
賤女小雪
后に泉州高須郡の
契情地獄

比良暮雪
七十一番職人歌合
あふぎうり
秋さむき初やのうふぎの
風ふかせてもとめあろかな
扇子屋塵右エ門が
處女風折

三井晩鐘
矢橋帰帆
近江國堅田舩人
厚作

辛崎夜雨
白柏子藤浪ゞ
家塵吉
石ゐ泉州堺甲斐街
中濱の賈客
扇子屋
塵右衛門

粟津晴嵐
聰明君の
御乳母瀧橋局


石山秋月
東近江國志賀郡
西山城國愛宕郡

女郎花五色石基
第五編六編
種員輝作
國貞画

前編近馬琴翁著述
種員うきつぎ年〻編校
風俗淺間嶽 初編 種員校合
柳烟亭種美抄録 図画
孝いろは亀鑑 初編 二編
種員校合
柳昇亭種蔭録 画

右の冊已いつれも子年八月発兌
仲春始ふのとうを賣出しうれ
仲年 求め給ふ者これ
板元 甘泉堂 伏白

種員つぐ
こふ聰明君
世安楽

一水三角
二

安政四丁巳春
發行
日錄記

女郎花五色石臺 八編 九編 柳下亭種員作 一龍齋國盛画

新編金瓶梅 初編より十編まで 曲亭馬琴作 大尾 一陽齋豊國画

昔の金水人魚盃 五編 六編 出板 為永春水作 歌川國貞画

一猛齋芳幸画
六歌撰詠色双六 三十ろくうせん えのろう しきろく
なを世古の数つぎこのこと極さい
きこふ仕立をれくの家ふ ろうく
そのけーきろうにくれば初出の
ロすきこふ五極よりこき双ろ

小倉百人一首姫文庫 極彩色 小本一冊

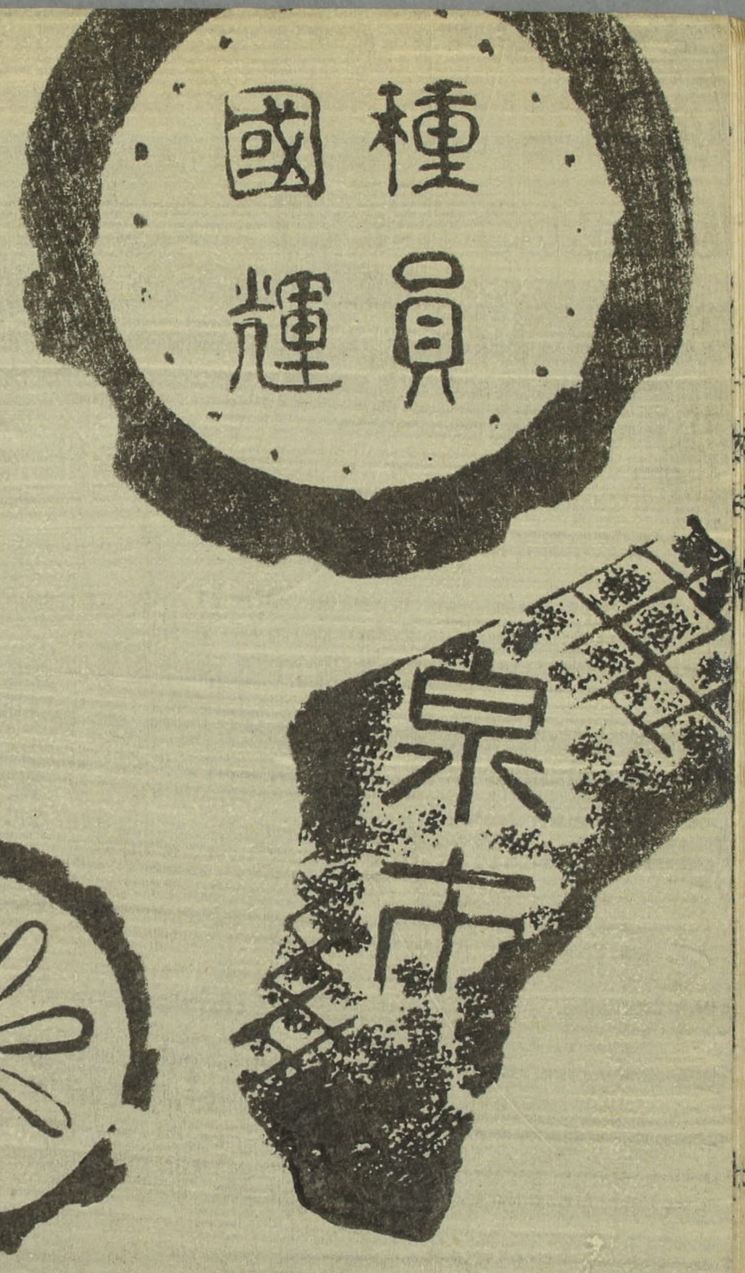
古今俳人百撰 中本 荒木田守武 一冊

芝神明前 甘泉堂 和泉屋市兵衛板

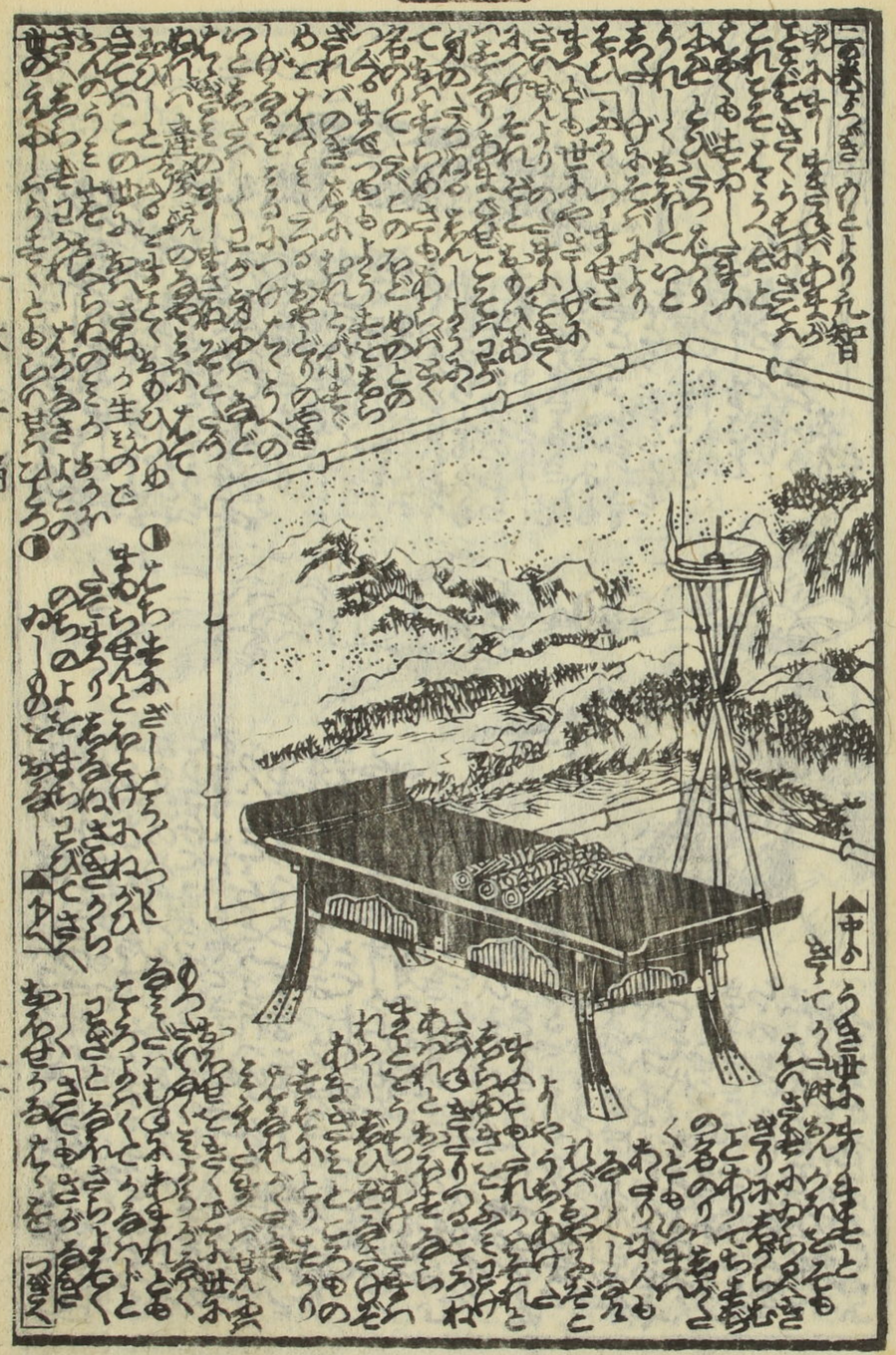
種貞作
國輝画

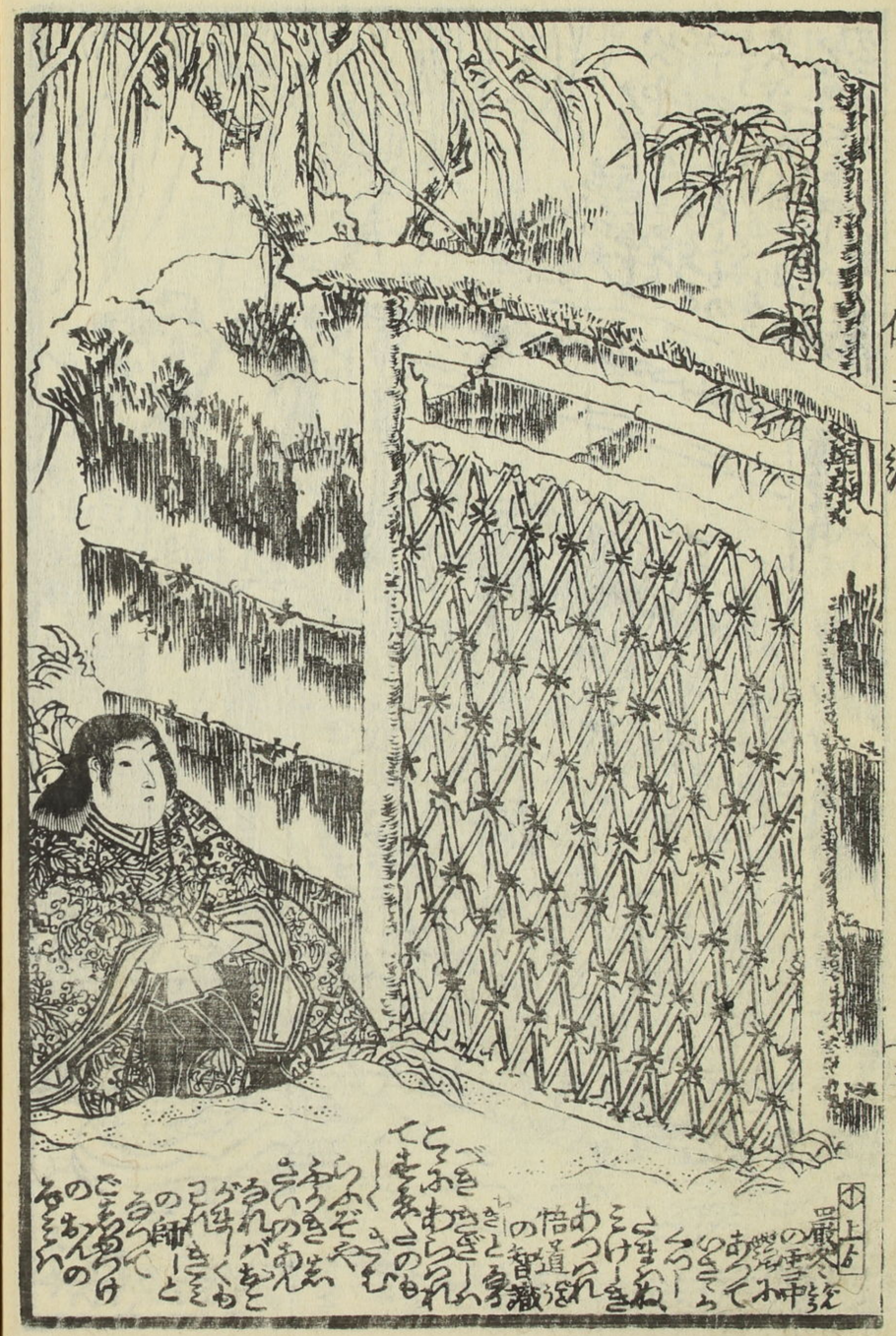
三編下

甘泉文庫



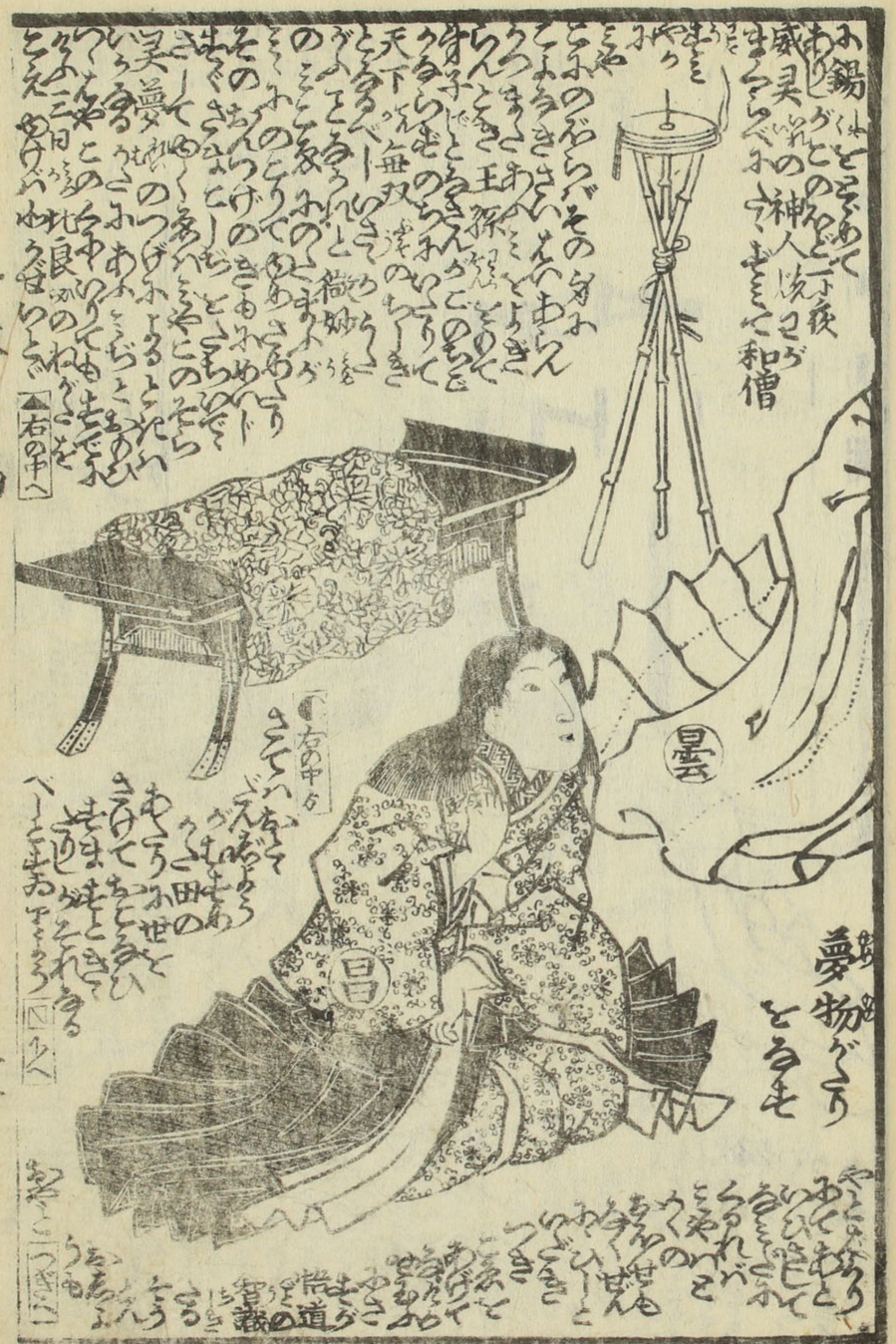
発客泉市





聰
雲

宗曇越路
聰


夢物がたり
昌雲

宗曇和尚の夢ふ神人きたりて聰明君の事を傳ふ
曇

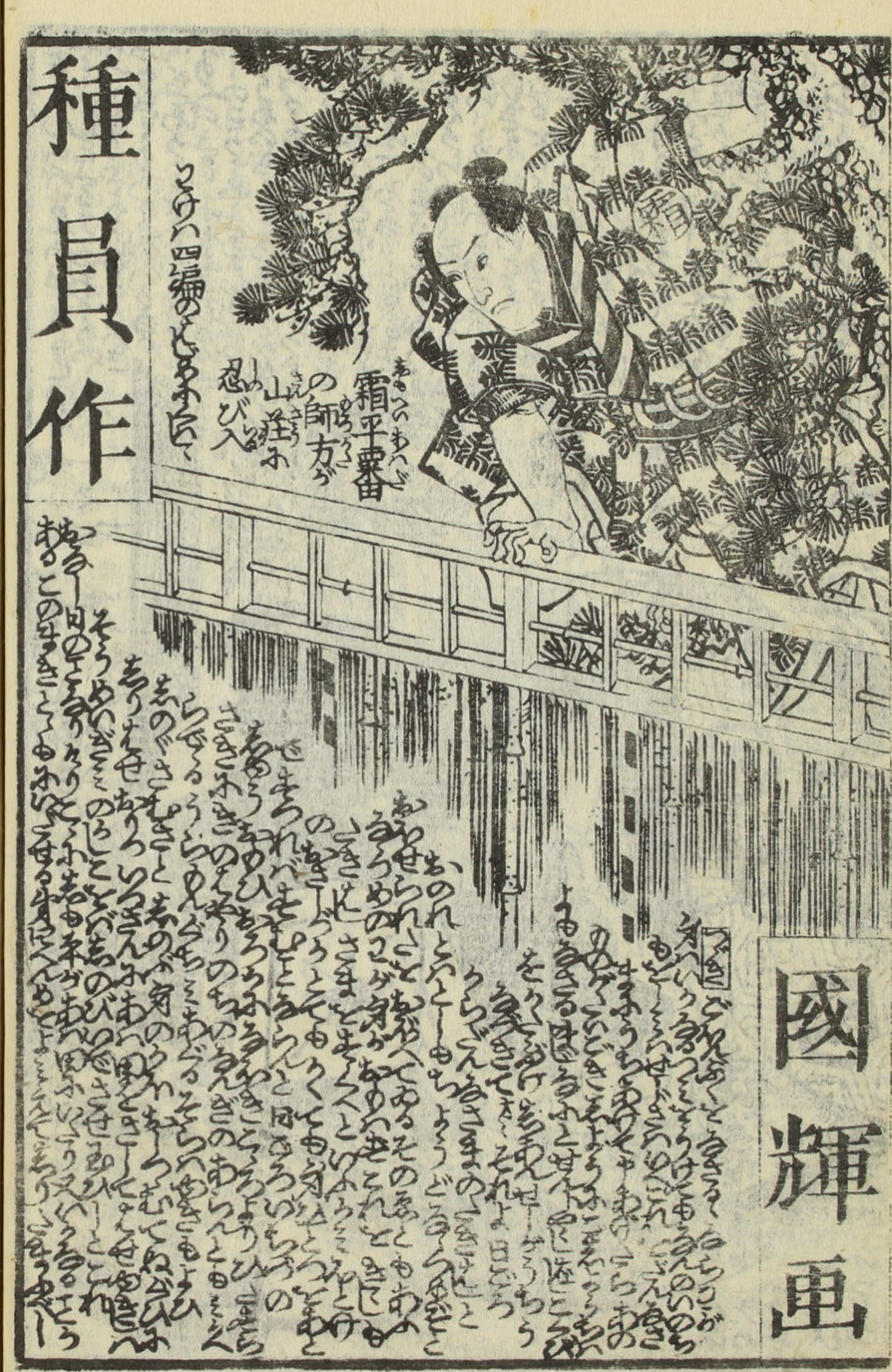
新作川
同ゼンノ人

相

龍

種員作

國輝画



柳煙亭種久作
一壽齋國貞畫

忠臣貞婦
いろは文庫

初編 二編 三編 出板 別所藤一冊 柳下亭種員校合 一場齋豊國助筆 梅素亭玄魚補

仮名反古 一休草紙 九編 十編 十一編 柳下亭種員作 一壽齋國貞画

小女郎蜘蛛の巣環 三編 大尾 曲亭馬琴作 一勇齋國芳画

照天松操月鹿毛 五編 六編 春風亭柳枝作 一雄齋國輝画

風俗浅間嶽 五編 六編 種員校合 種久抄録 國貞畫

種員作
小題曲亭馬琴
四編上

刊
英堂

大
德
寺

戯作の書を膳部ハ譬諭ハ讀本物ハ老實ゐる二膳添の料理めき中本類ハ會席膳扨稗史ハ煎茶ぐめつゝ夜食膳ともいひつゝ赤小半紙の色ハ上白米表紙の摺ハ手を尽くせハ香ハ物の品數かゝ並べる今世の流行ハ茅一作者画工も若の意ゞ成丈ハ重文うゝゞ調理方をもるこゝ能くよろれ其ハ違ゝ此冊子ハ一休和尚の事蹟と綴ゞ自然ハ一うつゝ普茶の献立禪録法語の油製佳童方や今嬢連ハ不愛ゝ所のこゝろゝんと氣ハ注きゝ當編ゞ未漸禪師の幼稚頃精進物の難を免ゞ竟山像高須の地獄野晒悟助ゞ立引ハ貯めゝ鮮堺の濱ハ櫻鯛大和川の鰻鱺かゞと画組も讀も花美ゐる旨ハ條さまゝらゞゞそれすゞの辛抱と頻文の偏屈油尺ハ欠ハ俤ゞ後編の美味ゞ待せゝ

嘉永癸丑大蔟

柳下亭種員識

金葉集
足利家
軍政
音川讃岐守
頼賢
右大辯藤原師方卿

佐々木六角
刑部大輔
秀連
洞院中將源相忠卿
瀧橋局
父子

口真似草
明暦二年刊行
梅盛撰

秋風と
きくや
耳の
なかの
光

嘉雅

泉州高須里の遊君地獄
後巻ふ出る

空林風葉
天和三年刊行
自悦撰

愛宕の
桜を
わたくし
ぶり
小雪作

長春

おくれ雙六
延宝九年刊行
清風撰
浮世や
涙乃
言葉
涙ゝ
了静
右大弁の
雑掌
三上典膳
師方の
愛妾
菱垣后
典膳の
婦妻と

佐夜中山集
寛文四年刊行
松江重頼撰
誓ひ深
剣を
捨て我
代ゝ
ゝる
段明之
洞院家の奴隷
霜平
其先山城国
相楽郡
新郷の
農夫

三べんかつぎ

▲左のよか

▲中か

▼上へ

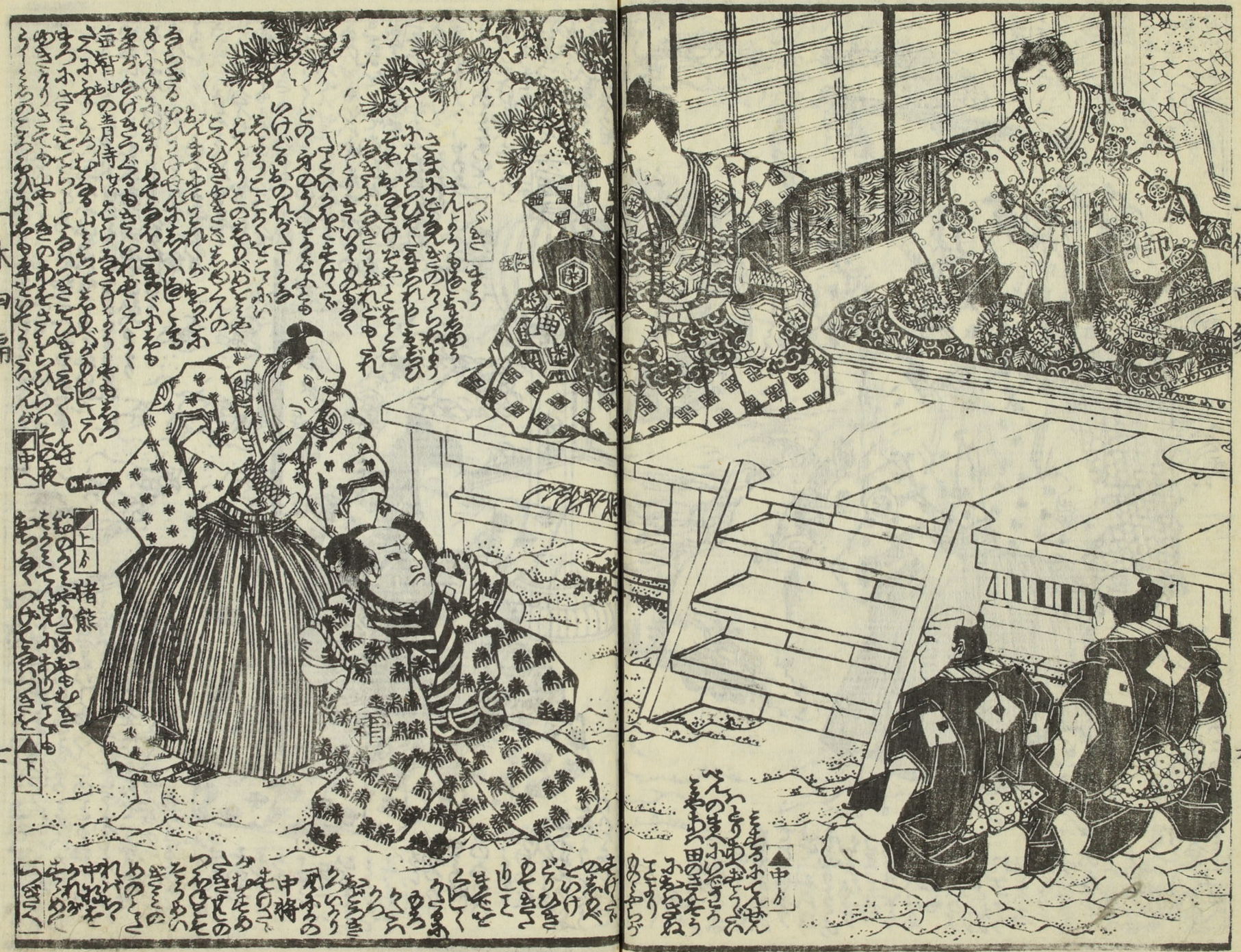
▼左へ

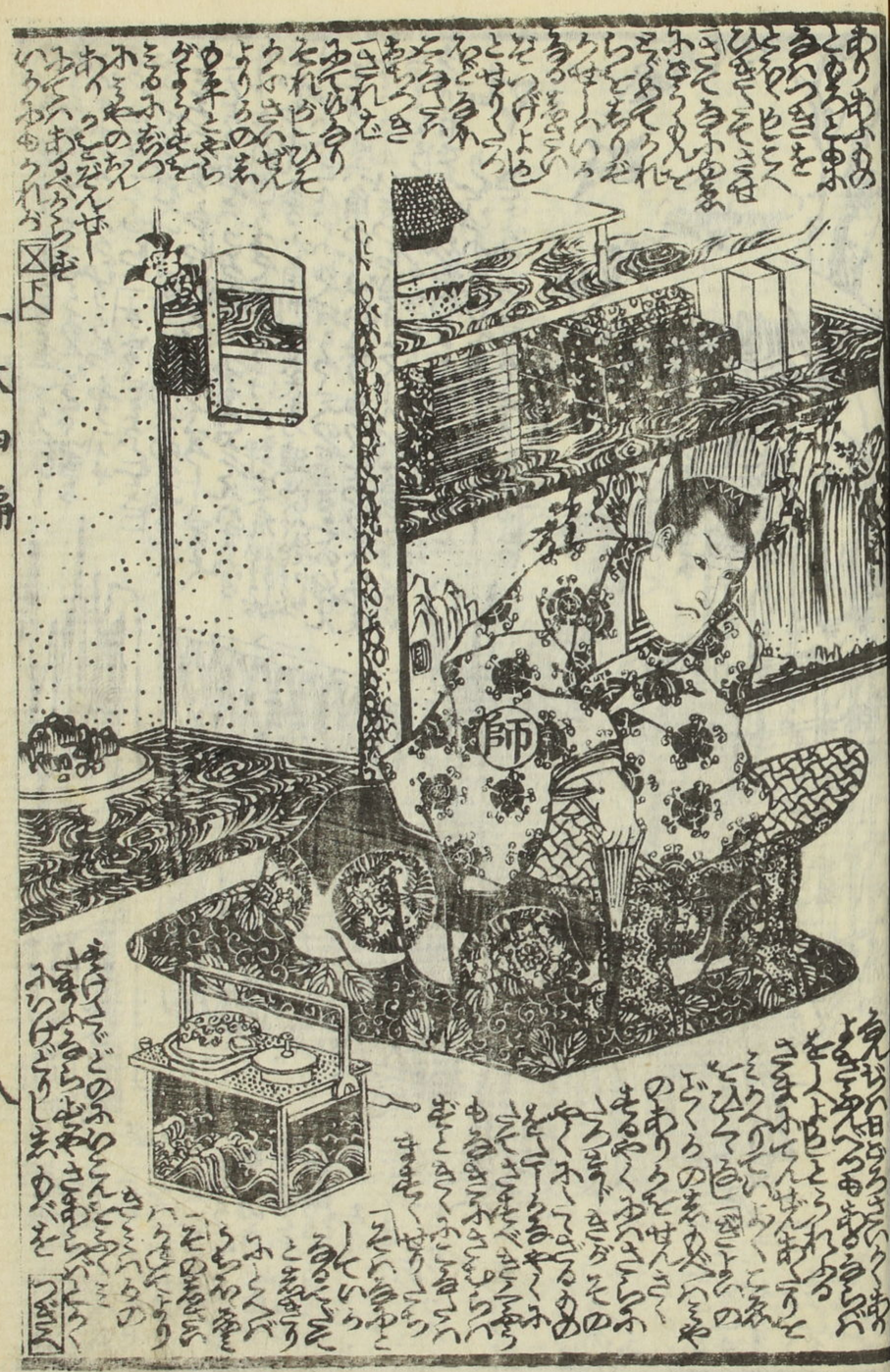
▼右か

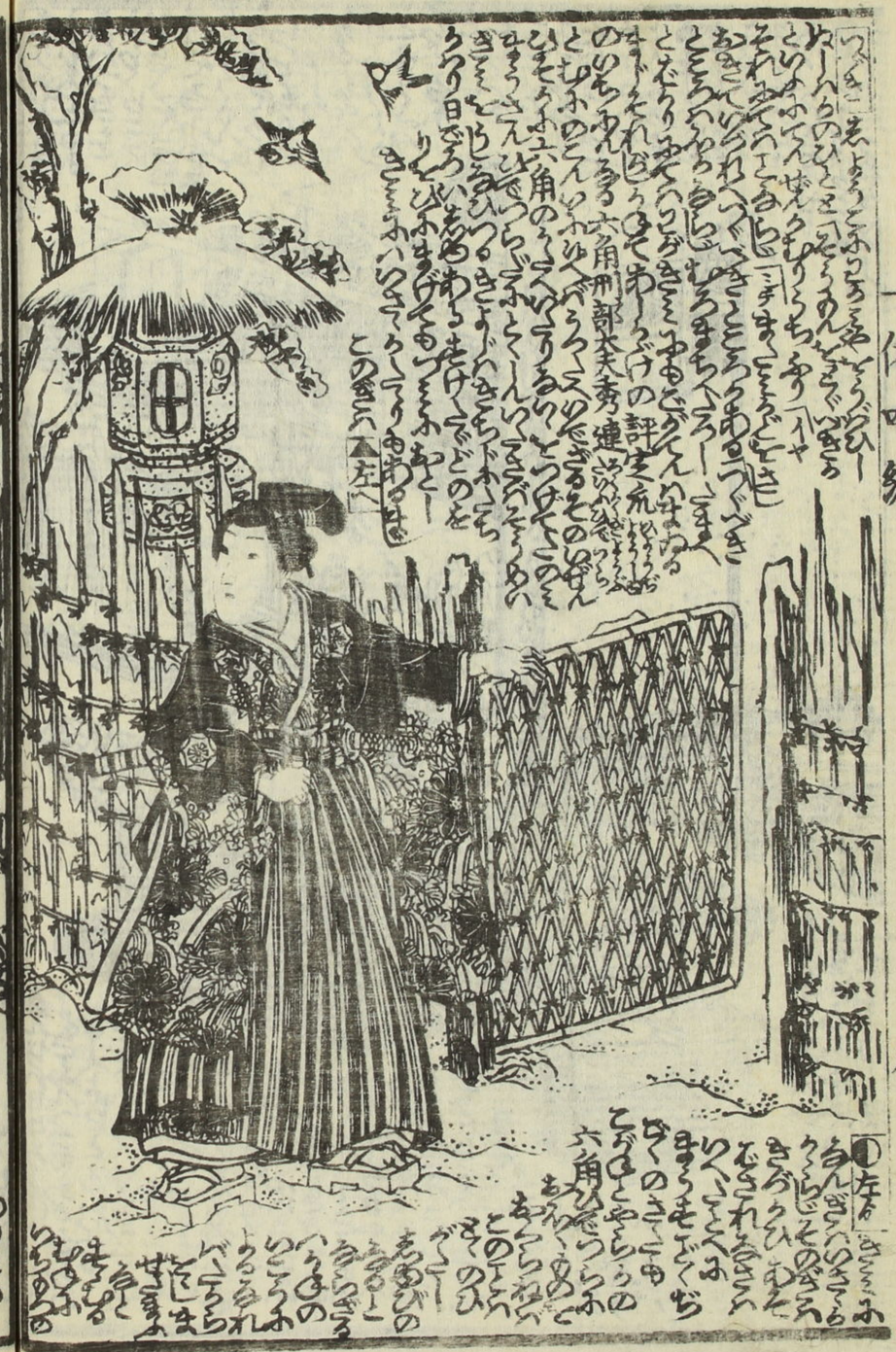
▲右へ

▲中か

▲左へ


つゞき
上ノ
猪熊
中ノ
下ノ
中ノ





安政四
丁巳
春
發行
日錄記

女郎花五色石臺 八編 九編 祈下の種員作 一統齋國盛画

新編金瓶梅 初編より十編迄大尾 曲亭馬琴作 一陽齋豐國画

昔金水天竺盃 五編 六編 出板 爲永春水作 歌川國貞画

一猛齋芳艶画
六歌撰詠色双六 三十ろくうせん 極彩色 小本一冊

小倉百人一首姫文庫 極彩色 小本一冊

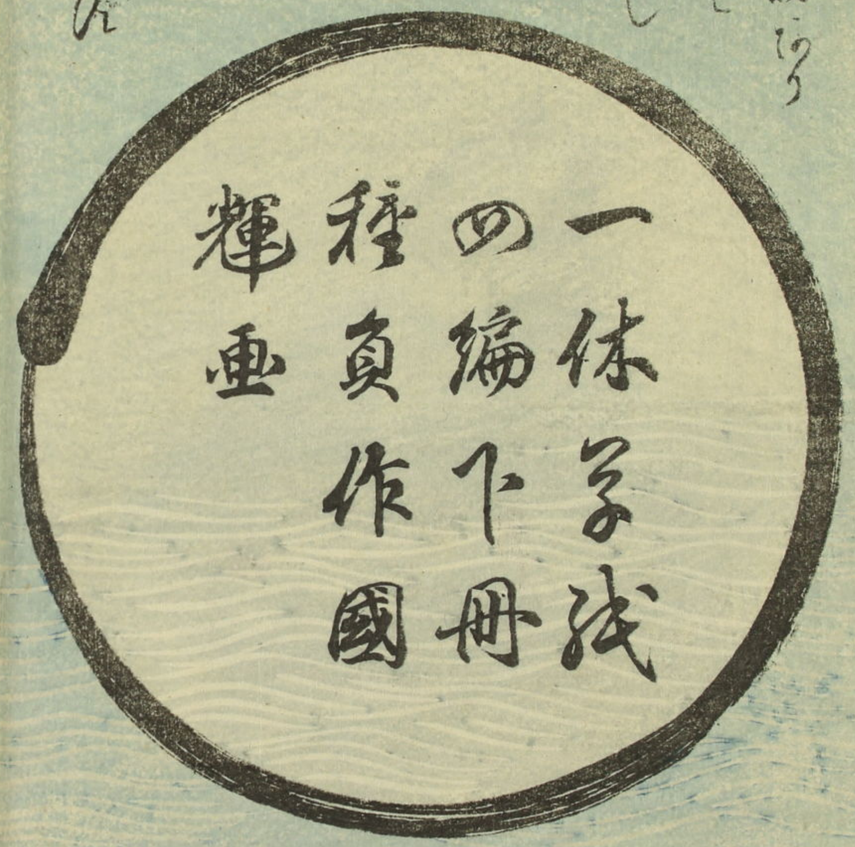
古今俳人百撰 中本 荒木田守武 たづめ蓼太 二冊

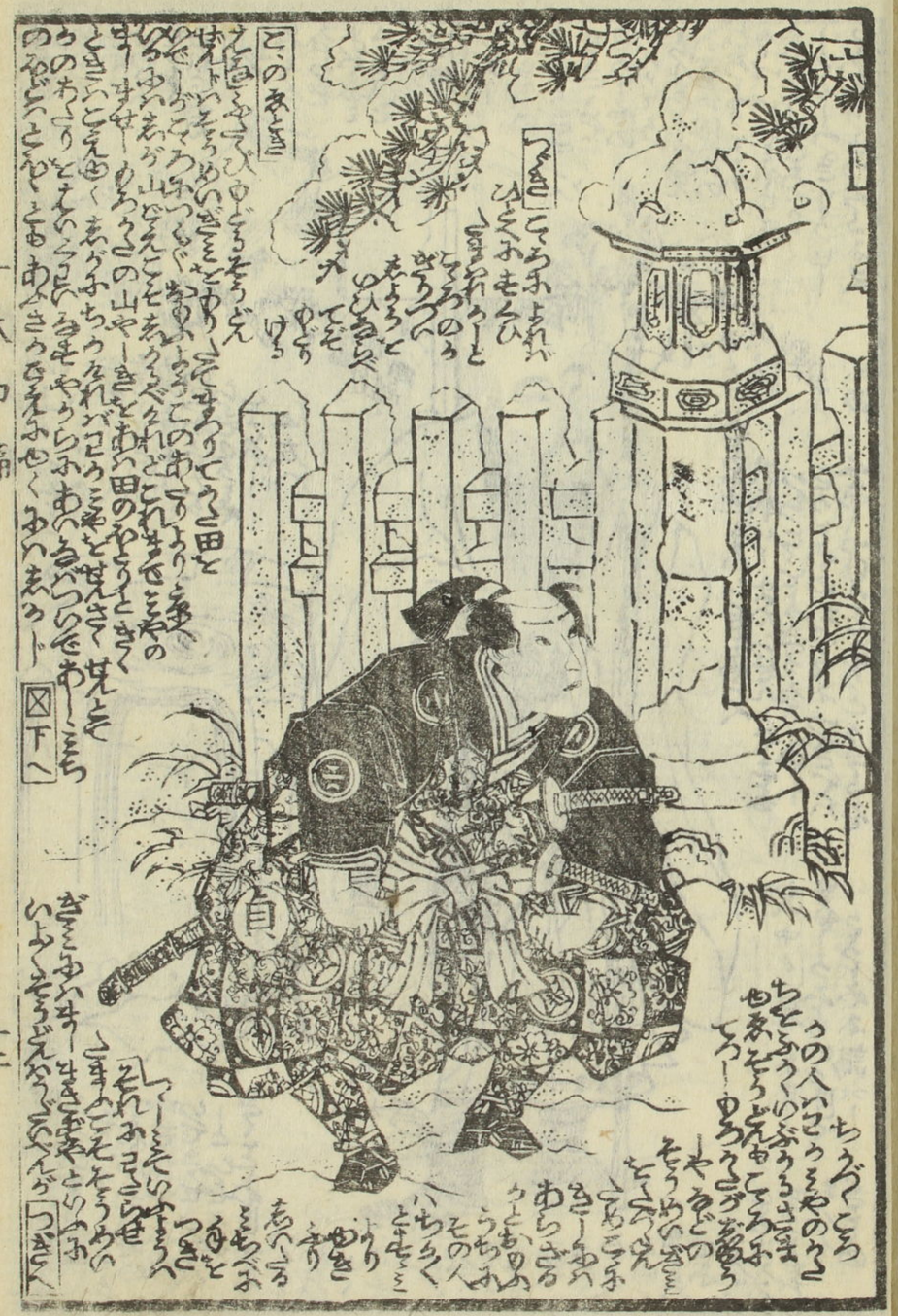
芝神明前 甘泉堂 和泉屋市兵衛板

種員
國輝
京市

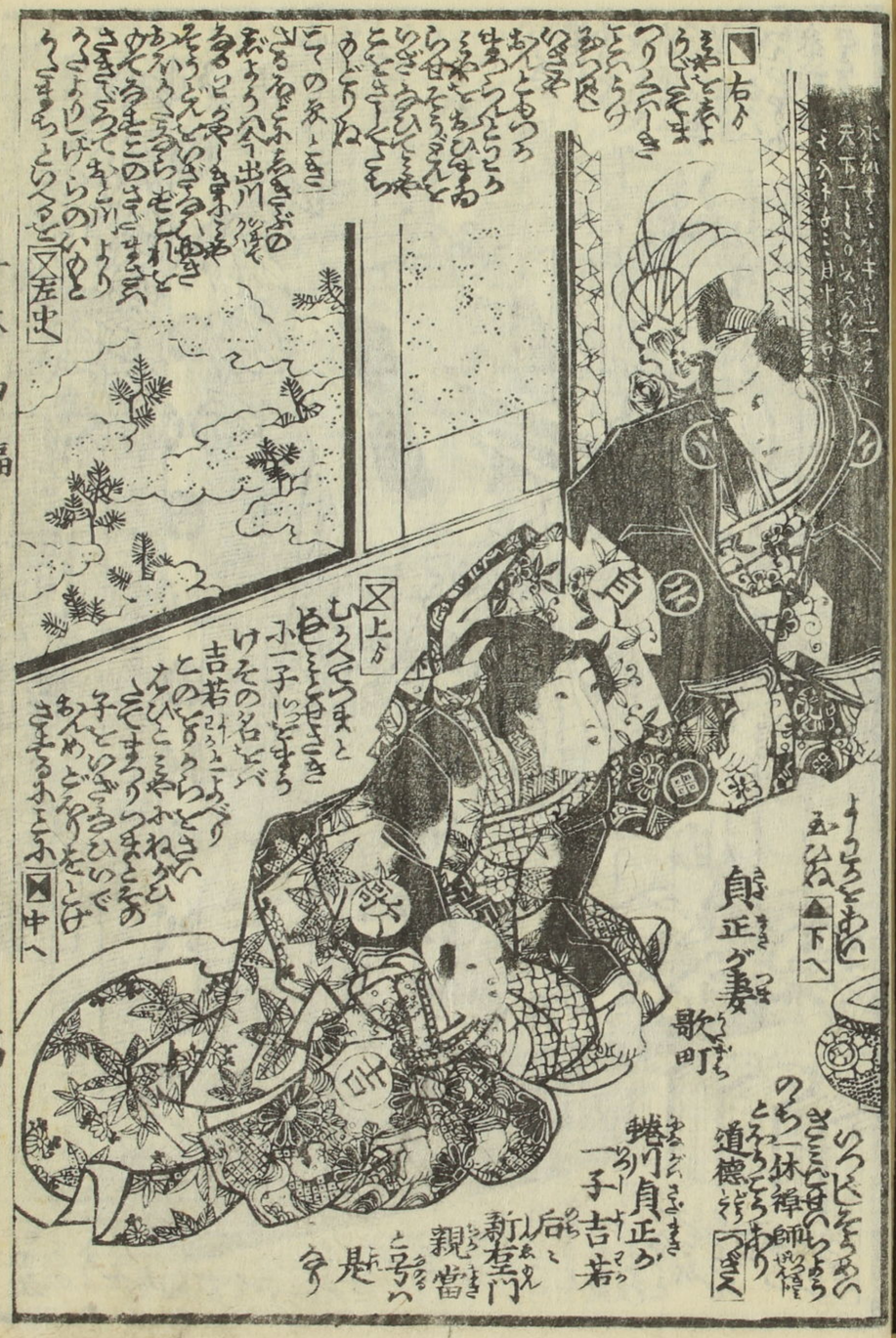
國輝画
假名
反古
一休
法ノ
寸多壽梓
四編下

二の巻よりつゞき
室町殿の代参
とを音川
頼賢携州住吉へ
詣図
中へ
上へ
下へ
中方


一休の編
種貞作
輝亜
芝神明前
泉市壽梓



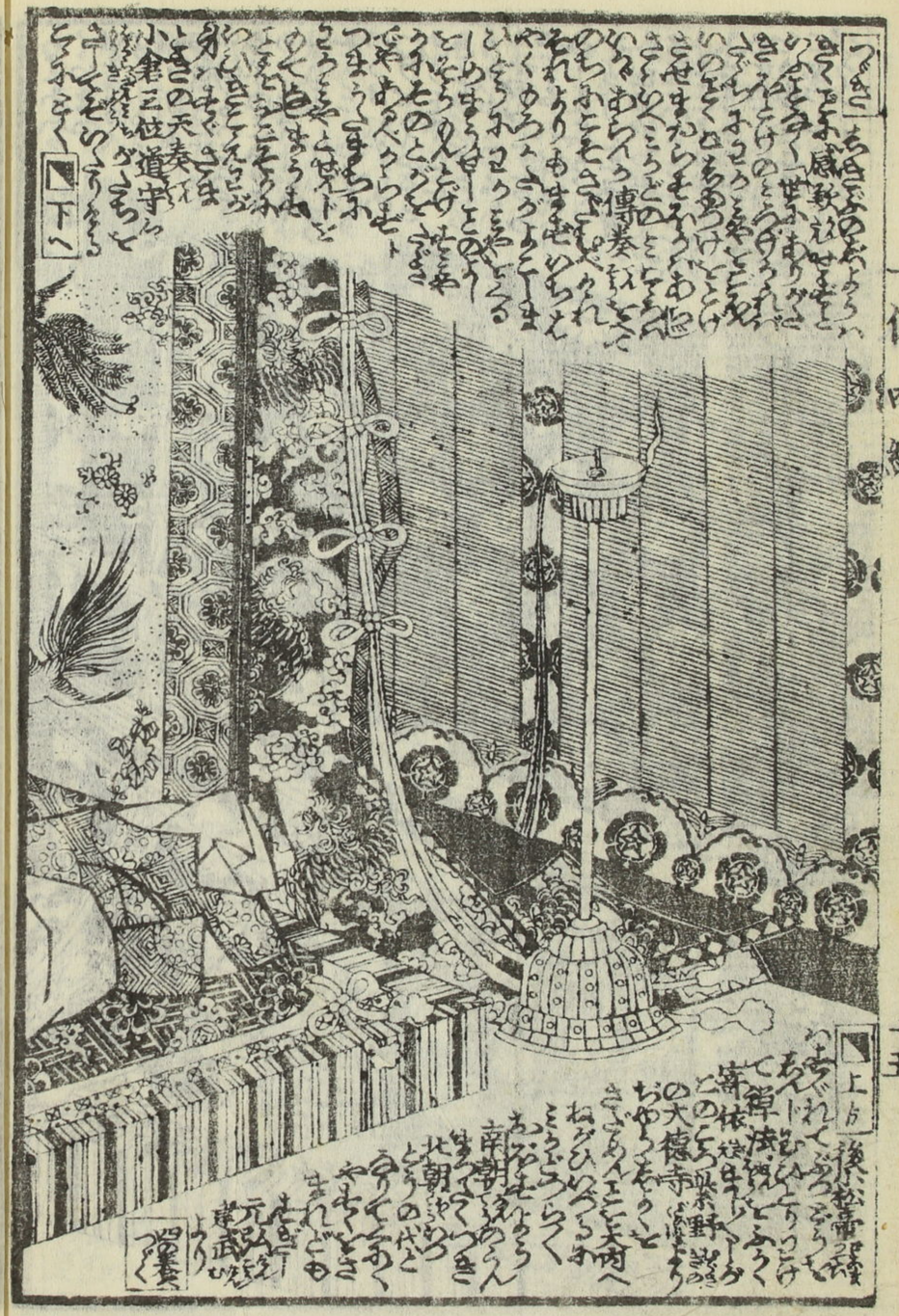
つぎ
▲中ノ方
▲左の中ノ方
▲上へ


▲右ノ方
▲下へ
▲上ノ方
▲中へ
▲左史
▲左ノ方
貞正ガ妻
歌町
蜷川貞正ガ子吉若
新左門親當

つゞき

世上ほど
みくらべき
とろこれと
寄依さ
てまつりその
身わぞくふ
ありさぐら
ちんやりふ
奈禅糸色
さこりのこちち

◐ゆえこの
ことを
奏聞なりを
ん
とひ
ゆ
とひぎ
ん
ゆ
ん
ん
ん



つゞき

下へ

上方

つゞき

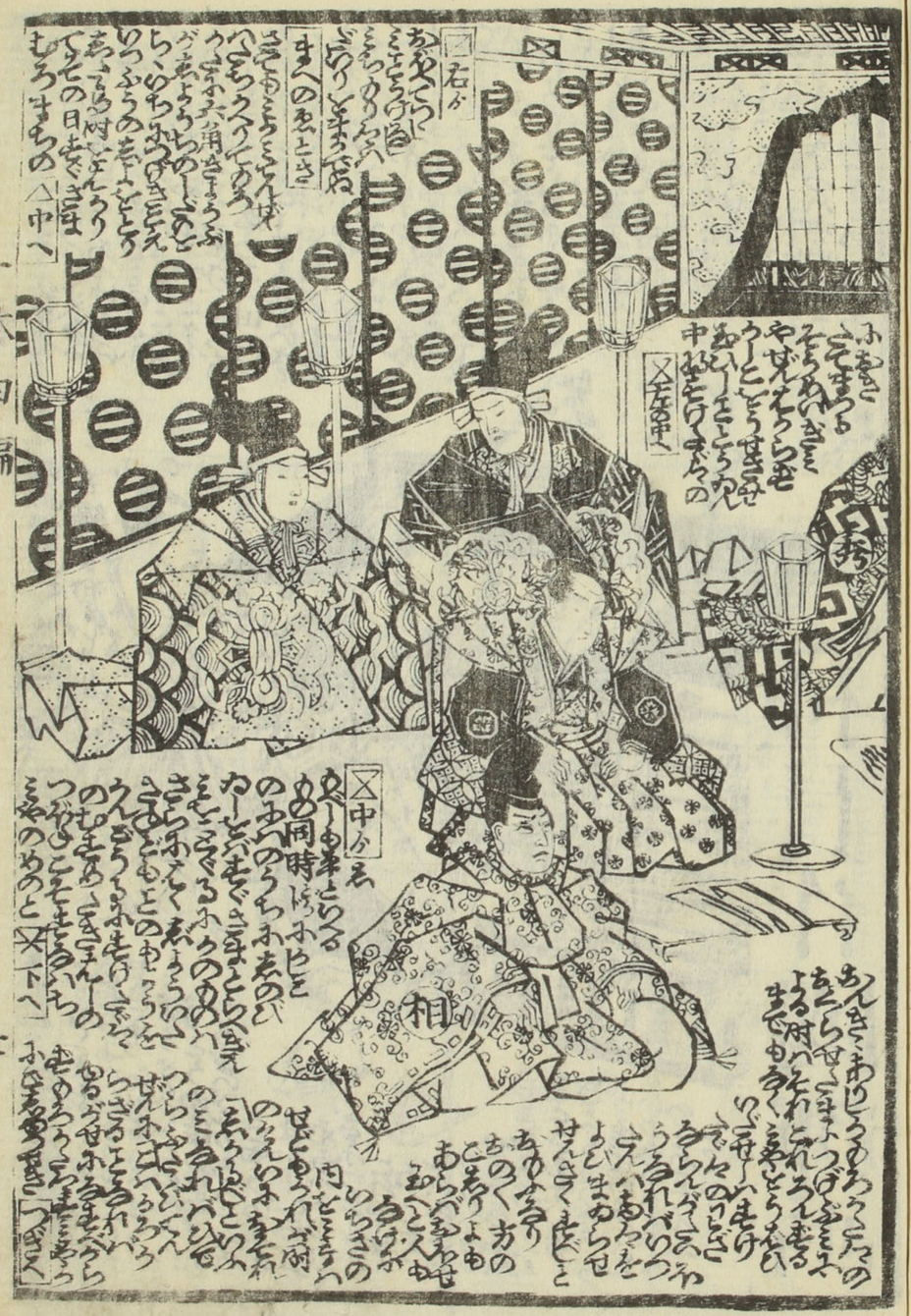
佛道守護の善神後小松帝の御夢ゑ後支と示せ圖

道

道

後小松帝

帝の御夢に聰明君堅田のゝ
道守郷の泰内の夜と
見る前の夏と



柳煙亭種久作
一壽齋國貞畫

忠臣貞婦 いろは文庫

初編 二編 三編 出板 別冊一冊 袋入

柳下亭種員校合
一陽齋豊國助筆
梅素亭玄魚補

仮名反古 一休草紙 九編 十編 十一編 柳下亭種員作 一壽齋國貞画

小女郎蜘怨苧環 三編 曲亭馬琴作 大尾 一勇齋國芳画

照天松操月鹿毛 五編 六編 春風亭柳枝作 一雄齋國輝画

風俗浅間嶽 五編 六編 種員校合 種久抄録 國貞畫

休憩所

大德寺

かなのぢうし

一休さま

四篇

新和歌のとし
きつの春秋

柳下亭種員作

一陸斎國輝画

甘泉堂
壽梓

國輝画